



東地中海地域ニュース

イスラエル・パレスチナ：アナポリス中東和平国際会議

(11月27日付「ニューヨーク・タイムズ」紙他)

1. 「ニューヨーク・タイムズ」紙の記事

- (1) イスラエル・パレスチナの交渉担当者は、中東和平国際会議における共同声明の策定に向けて進展を遂げた。そしてブッシュ米大統領は、27日のスピーチで、残されている相違点を覆い隠そうとしているようである。26日遅くになっても、イスラエル・パレスチナ両者は、タイムテーブルの詳細につき議論していた。パレスチナ側が今後8カ月以内の交渉完了を要求したのに対し、イスラエル側がこれを拒否したためである。しかし、米政権関係者は、いずれにせよ、タイムフレームが最終和平合意への最終期限としてブッシュ大統領の任期終盤に設定されると述べた。
- (2) ブッシュ大統領は、国務省での夕食会で、パレスチナ・イスラエル和平の達成には「困難な妥協が必要」と述べると共に、両者が妥協にコミットする指導者を選択したと述べた。米政権関係者は、同会議の翌日、オルメルト・イスラエル首相、アッバース PA 大統領、ブッシュ大統領がホワイトハウスで交渉を開始する予定であると述べた。
- (3) ファイサル・サウジアラビア外相は、米国が同会議で最終地位問題を協議すると約束したため、同会議への参加に合意したと述べる一方、とりわけパレスチナ難民問題が困難なものであることを示唆し、パレスチナ難民にイスラエルに帰還する権利を認めないとするイスラエルの主張について詳細に且つ批判的に言及した。
- (4) 全ての関係国の交渉担当者は、帰還権の問題は最も扱いにくいものであると述べた。しかし、最終地位協定に関する他の問題も簡単なものではない。このため、同会議は何かを解決するものとは期待されていない。その代わりに、パレスチナ関係者は、少なくとも来年、具体的なタイムテーブルの下、これらの問題に取り組むとのイスラエルの誓約を獲得できることを願っており、米政府関係者も、程度は低いにせよ、同様に願っている。

2. パレスチナのガザ地区での反応

- (1) 26日、ハマスを筆頭にアナポリス中東和平国際会議に反対する勢力約2千名が集まり抗議集会を開催した。ザッハール元 PA 外務庁長官は、「如何なる個人、集団、政府及び世代もパレスチナの土地の1インチも放棄する権利を持たず、抵抗及び闘争の前にはだかる者、又、占領軍と協力する者は裏切り者である」と述べた。
- (2) 26日、ハニーヤ前 PA 首相は、アッバース大統領が和平協議で譲歩する権利を持たないとする文書に署名すると共に、「同会議で出される我々の権利を傷つける如何なる勧告、コミットメントも我々の民衆を拘束しない。署名者を拘束するのみである」と述べた。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799